



## ～自然の音を聞いてみよう～【聴覚】

聴覚とは、五感の一つで、外耳、内耳、中耳、聴神経、聴覚皮質などの器官を使って音の信号を変換し、音の強さ、音色、音の方向、リズム、言語を認識する能力、機能のことを言います。今回は「子どもの聴覚」「音を使った遊び」についてお話ししたいと思います。

### 《子どもの聴覚》



聴覚は生まれてからではなく、お母さんのお腹の中にいる時から発達が始まっています。(20～25週) その為、お母さん、お父さんがお腹に喋りかける声や、料理の音など様々な音が聞こえています。ただ、羊水に隔てられている為、かなりこもった聞こえ方だそうです。

生後間もないころは聴覚が最も発達していて、1～2歳の間に、聴覚を含む脳の基礎的な神経回路がほぼ出来上がるそうです。

聴覚は言葉を取得するための重要な感覚です。大人の発することばを明瞭に聞き取り、目で見たものと連動させ、「言葉」として覚えます。その為、大人はただ言葉を発するだけでなく物の「音」を聞かせたり実物を見せたりすることが大切です。その方法として、「音遊び」をご紹介します。

### 《音遊びとは??》

音遊びとは文字通り、「音」を使った遊びのことです。音遊びは、言語の獲得に期待ができ、親子のコミュニケーションの一つにもなります。

音と言っても楽器の音、人の声、機械の音などたくさんの音があります。様々な音の中でも音遊びにおすすめなのが「自然の音」。自然の音と言われると葉の揺れる音や、鳥のさえずりなどを想像すると思います。これらを使った音遊び、そして「自然物」を使った音遊びを紹介したいと思います。

親子で  
楽しもう♪



#### ①「何の音？」

室内外のあらゆる自然の音を親子で探してみましょう。その時、子どもから聞こえてきた音について発見があれば、一緒に耳を傾けて、「何か聞こえるね。」「何の音だろう。」と問いかけます。

この遊びは、普段、日常の何気ない音に着目することで、子どもの聴覚を刺激する作用があります。又、親子のコミュニケーションをすることで、子どもの語彙を増やしたり、発語を促したりします。



#### ②「どんな音がするのかな？」



散歩などで拾った石、葉っぱ、ドングリなどの自然物を使って好きな容器に入れて、音を出す遊びです。

「この容器に入れたらどんな音がするかな。」  
「この素材を入れたらどんな音になるかな。」などと問いかけをしながら、音や素材への興味を引き出していきます。

又、容器の振り方や、素材の量を変化させることで音の違いを子どもと探すことで、子ども自身の考える力を養う関わりになります。

①、②に共通して大切なことは、「親子でコミュニケーションを取りながら」「一緒に楽しむ」ことです。自然に触れながら、音の世界を是非、楽しんでください。

幼い頃は子どもがきちんと聞こえているかという確認がし辛いものです。こういった遊びを通して、聴覚を刺激したり、聞こえの確認をしたりしていくことも大切です。